

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【岩槻区】

〈開催概要〉

日時：令和5年8月26日（土） 9：30～11：00

会場：岩槻駅東口コミュニティセンター 4階 多目的ルームA・B

参加者：15名（傍聴者1名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事務局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション ともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

〈発言1〉

今回は、基本的に資料を見た感じでは、地球温暖化対策の緩和についてお話されていたみたいですが、台風のデータにもあったように、さいたま市がどれほど被害を受けたのかということが、あまり具体的にはわかりませんが、毎年被害を受けているにも関わらず、被害額が日本全体では他国に比べて変わらないという状況です。なので、地球温暖化対策の適応に関しても、ホームページなどに出していただければ、こうすればよいのだなというのがわかると思いますので、適応にもぜひ力を入れていただきたいと思います。

あと、少し捻くれた話になるかもしれませんが、シャワーを流しっぱなしにしないとか、浴槽の追い炊き回数を減らすなどの個人でのことについて言われても、帰る時間は家族それぞれ違い、追い炊きの回数を減らすと言われてもなかなか難しいと思います。なので、個人でやるのももちろんですが、ぜひとも学校全体で取り組むのがよいと思います。私たちの学校でも、今コンタクトレンズを集めて温暖化対策をしようという取組がありますが、岩槻全体、さいたま市全体の学校で何か共通して行う活動を提示していただければ、こちらとしても活動しやすくなるので、提案させていただきます。

〈発言2〉

今回全体的なお話を伺って、初めて聞いた言葉や、まだピンときていない言葉等があります。その改善をするためには、学校との連携をもう少し強めて地球温暖化についての特別授業を設ける等、学生に参加を促しやすい環境をもっと整えたらよいので

はないかと思いました。

<発言3>

森林等で二酸化炭素を吸収すると言っていたのですが、実際さいたま市はあまり木がないと思います。これからそういうエリアをつくったり、例えば学校に寄付して、中庭をつくったりするのはどうなのかと思いました。あと、家庭で取り組んでほしいことをいろいろ言っていたのですが、それを知らない人もいるので、もっと家庭にチラシを配るといったアピールが必要だと思いました。

<発言4>

今回の話を聞いて思ったのは、知らない単語や政策がたくさん出てきたということです。世界規模の話になってしまうのですが、他国と比べて日本は温暖化対策に後れをとっているという印象があります。その基盤としては広報活動が大事だと思うので、未来を担う若者にもっと伝えていくためには、SNS や YouTube を使って、例えば海面上昇の原理を簡易的な実験で行うような、もっと興味をひける動画をつくるのがよいと思います。人気の YouTuber とコラボして YouTuber の独自のアイデアを交えるなど、興味を持ってくれる人が増える政策を行い、もっとさいたま市が引っ張っていければよいと思いました。

<発言5>

私は、公共交通機関の利用を促進することを提案したいと思います。国土交通省からの引用なのですが、自家用乗用車を利用した場合1人あたりの二酸化炭素排出量はバスの2倍、電車の8倍ととても多いです。私が提案したいことは、さいたま市コミュニティバスがあると思いますが、その利用率をもっとあげる努力をしたら、より二酸化炭素の排出量を削減できるのではないかと思います。そのために、ポイントカード式のアプリなどを作成して、使用を促進していけたらよいと思います。

<発言6>

今回このタウンミーティングに参加することになって考えた時に、今日本でどこでも地球温暖化が進行していることと、二酸化炭素の排出量を削減しなければならないことはわかっているのですが、具体的にどのぐらい進行しているかとか、どのような対策が必要なのか、また自分たちが対策をすることで、どのくらい影響が出るのかが、何となくわかっているだけで、イメージがとてもしづらかったです。そのため、なかなか協力したくてもできないというのが他の人たちにもあると思うので、対策を考えることももちろん大切だと思いますが、地球温暖化についての現状や未来や、その効果を皆がもっと認識できるような取組をして欲しいなと思いました。

その対策として、よく対策の見える化と言われると思うのですが、それももちろん大事なことだとは思いますが、それよりも前に認識するために現状の見える化を広めることが大切だと思います。そうすればもっと皆が協力的に地球温暖化について考えることができると思います。またこのようなミーティングなどで考える機会がない限り、一般の人たちがよく考える機会が少ないので、そういう機会をもっと増やすべきだと思いました。

< 発言 7 >

私が住んでいる地域では、ワゴンバスがらくらく号として走っています。炎天下の中で通院や買い物で利用率が高まっていて、時間帯によっては乗れないこともあります。その際は、タクシー会社の人からタクシーを手配してくれます。そういう施策をしていただいて、生活もとても楽になりましたが、エネルギーのことを考えると、別に自動車に限らず路面電車でも、効率のよいものを配置していただいて、皆が車を使わなくても楽に動けるようなものを考案していただきたいなと思っています。

それと、うちのマンションで言いますと、玄関のそばにポストがあるのですが、そのそばに大きなごみ箱がありまして、チラシなどはほとんどそこに捨てられてしまう状態なので、宣伝は、何かインパクトのあるものを継続して出していただかないと、なかなか目にとまらないと思います。年寄りになりますと先程の SNS のようなものは頻繁に使うということがまだ普及していないので、捨てられないチラシの工夫もよろしく願いいたします。

< 発言 8 >

まず補助金の話があったと思いますが、太陽光発電設備やエネファームの設置、蓄電池の設置の補助金について、設置しない理由として、多分管理費が高いからなのです。管理費の何%を補助するとか、そういう案が出てくれば皆さんもっと設置すると思います。また、さいたま市の電気自動車のレンタルなのですが、調べたところ、「さいたま市電気自動車」と調べても何も出てきません。ということは、宣伝が足りないのです、さいたま市電気自動車のレンタルの宣伝ももっと行うべきですし、あと先程の自動車以外の交通手段というもの、例えば海外では電動キックボードなども各地に設置されていると思うので、それも参考にいろいろな所に設置していただければと思います。

あと、日本は遅れているので、海外の市の対策も参考にした方がよいと思います。

< 発言 9 >

私の高校では、紙の消費を抑えるために生徒総会の資料をデータ化するなど、ICTを活用しています。スマートフォンやインターネットを利用して、地球温暖化につい

での詳しい情報を発信するのもやりやすいと思うし、特に最近の若者は YouTube や Instagram といった SNS を利用することが多いと思うので、そういった SNS で発信することによって、より若い人たちに広めやすいのではないかと思いました。

<発言 10>

市の進めている脱炭素という方針は間違いではないと思います。ただ、長い地球の歴史から見ると、石炭紀というものがあり、今の二酸化炭素は 21%なのですが、当時は 35%ありましたので、昔は非常に二酸化炭素も多くて、気温も今よりも高かったということで、地球全体で見ればそれほど異常ではないと思っています。ただ我々が生活していくに当たって、二酸化炭素を抑えて気温を抑えることは基本的に間違っていないと思います。何故低くなったかという、樹木がたくさん地球に生えてきたので、それが二酸化炭素を削減して、そして、地球の温度がだんだんと下がってきたということを見ると、木を守る、木を増やす、木を大切にするという政策を進めていただきたいなと思います。

その方針として、まず住宅なのですが、住宅は安いという少し表現がおかしいですが、30 年ごとに建て替える方針でしばらくきているのですが、昔の住宅は、100 年 200 年もつという建て方をしています。ですから、100 年単位で見据えたような住宅については、補助金を出すような政策も必要ではないのかなと思います。

なお、この住宅については省エネタイプという形で、空調を使わなくても生活ができるような住宅にすべきだと思います。例えば冬でもちゃんと断熱効果の効いた、外気を遮断して、家の中でちょっとした電熱器くらいあれば、暖かい。夏は大地の冷気を吸い上げて住宅を冷やすような形で、空調を使わなくても快適に住める。なおかつ樹木を切って造り替えなくてもよい、長持ちする住宅。こういう住宅には補助金を出すのがよいのではないのかなと思います。要するに木を切らずに、たくさん植えることが二酸化炭素削減に向いているのではないのかなと考えます。

あと 2 番目として、マイカーというものはあまりよくありませんので、先程も提案がありましたように、皆さんが公共機関を使うように仕向けることが必要です。ポイントにすればよいのではないかという提案がありましたが、これは素晴らしい提案だと思います。あとポイントとして、埼玉県の進めている健康マイレージというものがあるのですが、これはマイカーを使わないで歩きましょうということで、これは健康のためにも非常によいです。できるだけ歩いてバスまで行く、歩いて駅まで行くという方針のためによりよいと思いますので、健康マイレージをもっと有効に PR していただけたらなと思います。

あと最後になりますが、再生可能エネルギーの普及は地球温暖化にも役立ちますので、できるだけいろいろな発電設備を考案していただいて、市民にできるものがあつたらそれを PR して設置を推進する方策を進めていただけたらなと思います。

◆市長

>>発言 1

緩和ということだけではなくて、適応についても力を入れるべきだというお話をいただきました。特に災害が毎年起きている状況の中で、被害を減らすための取組などについても、ぜひ力を入れてほしいと、こういうお話をいただきました。また、特にいろいろな具体的な取組については、個人だけではなく、学校や地域全体を巻き込んで皆でやっていくことで効果が高められるのではないかという御提案もいただきました。

適応についても、今私たちとしては特に災害対策については、非常に短期間で豪雨が続くということで、特に岩槻の場合はかなり低い場所があり、水が出やすい場所があります。その中で流域治水ということで、公園の下に調整池をつくったり、学校の校庭を少し低くして、そこが調整池になったりという取組なども行っています。災害が起こった時に市民の命を守っていくことは大変重要ですので、こういった施策なども行っていますので、しっかり PR もしていきたいと思います。

それから、個人だけだとどうしても限界があったり、モチベーションとして下がってきたりという傾向があると思います。学校など、皆でやっていくことはとても重要な提案で、具体的に行うことで、いろいろなことを考えていただくきっかけにもなると思います。素晴らしい提案だと思います。

>>発言 2

説明した中で初めて聞いた言葉、わかりにくい用語などもたくさんあり、学校の中でこういった環境について学ぶ機会をもっと充実させたらよいのではないかという御意見をいただきました。これもとても重要なことだと思います。若い世代の皆さんが、地球温暖化について考えていただく機会をしっかり持つていくことはとても重要なことだと思います。どうしても普通の学校の科目だけでは環境の問題はカバーしきれないところがあり、科目の狭間の所に、かなり分野横断的な部分もありますので、環境について考える、学ぶ機会をどう持つていくかというのはすごく重要な話だと思います。今さいたま市全体では一応学区ごとに SDGs について考えるような取組もやっていただいているのですが、特に環境、脱炭素化、カーボンニュートラル、こういったことについて、もう少し学習する時間がとれて皆で考えていただく機会を増やせばと思いました。

>>発言 3

木を増やしていく視点で、二酸化炭素を排出する量を減らすことも大事だが、あわ

せて吸収をしていくことにも力を入れていくべきだという御意見だったと思います。その中で、学校の中庭に木を増やしていったらどうか。木を増やすような取組をしてはどうかというお話をいただきました。

今さいたま市としても、グリーンインフラという言い方をしていますが、街の中にもっと緑を増やしたいと思っています。そして、特に駅前周辺は開発によって緑が少なくなってしまいますので、その中でもしっかり緑をつくり、木陰をつくっていく。そのことが地球温暖化対策としてもプラスになるし、これから高齢化社会になりますし、また子育てをする皆さんもたくさんいらっしゃいますので、そういった皆さんのんびり歩いて、少し休める、こういった環境をつくる必要があると思っています。これは商店街にとっても、ゆっくり歩く方が増えると、経済的にも買い物が増えるという効果もあると言われていています。今は街の中の話をしましたけど、それだけではなくて、いろいろな場所に木を増やしていくことをあわせてやっていきたいと思っています。

>> 発言 4

知らない単語とか言葉が出ると少し拒否反応というか、その言葉ばかり引っかかってしまって、理解しにくいということがあると思います。そういったことも含めて広報活動の充実ということで御提案をいただきました。SNS や YouTube を活用して、わかりやすく興味をひけるようなものをつくったらどうか。また、人気の YouTuber の人たちと連携をしたらどうかという、大変具体的な提案をいただきました。重要なことだと思います。私たちも工夫しながら、広報の取組を強化していきたいと思っています。

>> 発言 5

公共交通の拡充ということで御提案をいただきました。私たちもこれはとても重要なことだと思っています。コロナ禍の3年余りで、公共交通に乗る方が大分減りました。感染しないようにという視点で自家用車への揺り戻しがあったのですが、もう一度公共交通の重要性を、もっとPR しないではいけないし、使っていただくための努力もしていく必要があると思っています。

お話の通り、公共交通を使っただくことで、間違いなく二酸化炭素の排出量が減ると思っています。コミュニティバスの利用率を向上させるための1つの手段として、ポイント式でアプリを活用するという御提案をいただきました。今さいたま市も同じような思いで、調査をしています。地域通貨、地域ポイントを活用できればと考えていて、例えば公共交通を使ったら地球環境ポイントで少しポイントがつく。一緒にクリーン活動してくれたらポイントがつく。そういった、皆さんが脱炭素や環境、SDGs といった行動を起こすための1つのインセンティブに活用できないかということで今検討を進めていて、できれば来年度あたりから実施できればと思います。

今、残念ながらコミュニティバスの利用率がまだまだ少ないのです。先程お話がありました、AI デマンドなどの、小型のものは比較的活用されていて、特に岩槻は非常に活用していただいています、そうでないエリアはまだまだ、あまり人が乗っていないバスが動いているような状況です。民間の公共交通への影響をできるだけかけないようにということも考えなければなりません。というのは、採算が悪くなると民間の事業者の路線がなくなってしまいます。負の連鎖になってはいけませんので、私たちとしては民間の公共交通がない所を中心に走らせるというやり方でやっているのですが、いかに公共交通に切り替えていただくかということがとても重要だと思います。

>> 発言 6

どのような対策がどのくらい進んでいるのか、これが非常にイメージしづらいというお話がありました。現状と未来を認識しやすくしてもらうための、見える化の手段をもっと拡充した方がいいのではないか、こういった御意見をいただきました。これは私たちもそう思います。現状がどうなっていて、それを私たちが行動を起こして取り組んだことによって、どういふ変化が出て、将来どうなっていくのかということ、わかりやすくすることはとても重要なことだと思います。

電力については、今までは東京電力を中心に供給されていたので、わかりやすかったのですが、今は電力を供給する会社が増えて、わかりにくくなってしまっています。全体としてはわかるのですが、例えばさいたま市という小さなエリアになった時に、十分測定ができないような状況になっています。今私たちも、これが測定できるようにしてほしいと国に要望しています。私たちが取り組んできたいろいろな対策が、どのような効果があったのかということ、私自身も知りたいです。それは、行政としても市民としても事業者としても、いろいろな取組をしても、どういう効果があったのかわからないと、続けていこうというモチベーションにつながらないと思いますので、皆さんがやってくださっている1つ1つの行動がどう、地球温暖化の防止に役立っているのかということを知ってもらうことはとても重要なことだと思います。ぜひ私たちもそれを見える化をして、皆さんがやってくださっていることがどうプラスになっているのか、お知らせできるようにしていきたいと思っています。

>> 発言 7

岩槻で運行している、乗合タクシーのお話をいただきました。今岩槻ではいろいろな実験を行っています。定時で動く小型のバスのタイプと、AI デマンドということで必要な時にアプリや電話で呼ぶことができ、最適な道を通って目的地に近づく、そういう取組も行っています。AI デマンド型の交通の実証実験もやっていますが、できるだけ環境に負荷をかけない移動手段で、かつ移動しやすい環境をつくっていくことは私たちもすごく重要なことだと思っています。

その他にも、さいたま市ではいろいろな実験をやっています。例えば、コンビニには電動アシスト付き自転車が置かれていると思います。今さいたま市内には大体 400 か所以上整備されています。コンビニの他にも、公共施設、区役所、図書館にも整備していただいています。これは乗り捨て型の電動アシスト付き自転車のシェアリングサービスで、民間の事業者と一緒にやっています。借りた場所ではなく、行き先の近くで返していただけるものです。

今は自転車に加えて電動スクーターや小型の電気自動車も使えるようになりました。これは今まだ大宮やさいたま新都心周辺のみですが、これをもう少し広げていきたいと考えています。できれば基本的には公共交通を使っていただきたいのですが、例えばバス停から自宅まで距離がある方もいらっしゃると思います。もちろん歩いて行かれるのが健康にも環境にもよいのですが、それが難しい方もいらっしゃると思います。そのラスト 1 マイルに対して、移動がしやすく、かつ環境を悪化させない移動手段をつくるかということが課題となっています。電動キックボードや、電動アシスト付き自転車についてもいろいろなタイプが出てきているので、なるべく移動しやすく、そして環境にもよいものの導入も検討しています。

これから高齢化の時代にもなっていくと思います。免許を返納する方も増えてきますので、マイカーでは移動ができない方々もたくさん増えてきます。今は若い方々の半分ぐらいは免許を持っていません。私たちの時代は、大半の人が自動車の運転免許を持っていますが、今は運転免許すら持たないという、そういうライフスタイルの方も増えてきていますので、公共交通でしっかり移動ができるような仕組みをつくっていききたいと思います。

>> 発言 8

太陽光発電設備、エネファーム、蓄電池については、管理費が高いので、管理費を補助してはどうかという御提案をいただきました。今太陽光発電設備、エネファーム、蓄電池等については、民間の事業者にもすごく頑張っていただいて、いろいろな方式が出ています。太陽光発電設備を設置すると何百万もかかりますが、これが例えばリースや PPA というやり方によって、イニシャルコストとして何百万も払わなくても、月々安い金額で払えるという方法もあります。今電気料自体は非常に高くなっていますので、その差額で、借りている費用がゼロにはなかなかならないかもしれませんが、ほとんど負担をしなくてもできるような、そんな仕組みも出てきています。

そういったことも活用しながら、できるだけ多くの方々に再生可能エネルギーをそれぞれのご自宅で持っていただくことが理想です。将来例えば災害があった時に、自宅で停電になった時にも、太陽光発電設備があれば電気を使えます。ですから、私たちとしても、補助金を活用する、民間事業者の仕組みを皆さんに広めていくなどして、更に再生可能エネルギーの使用を推進していきたいと思います。

それから、電気自動車についてもさいたま市の情報はなかなか検索結果に表示されなかったというお話がありました。これは広報をしっかりとやっていきたいと思います。さいたま市では、2009年から電気自動車の普及促進のために「E-KIZUNA Project」を進めています。電気自動車を理解していただき、積極的に使っていただくということで、急速充電器や充電設備を市内に、これも200か所近くあると思いますが、設置をして、電気自動車を買われた方が困らないようにしています。まだ電気自動車は一度の充電で長距離走ることが難しいので、充電できる場所をできるだけいろいろな場所に設置することで、不安を解消できるようにしています。

そして、電気自動車の購入についても補助金を一応出していますが、そういった取組もまた引き続きやっていかなければいけないと思っています。また免許を持たない人、返納した人が増える中で、電動キックボード含めて、自動車以外の移動手段を確保するというのも大切だと思っています。

その中でもう1つ課題なのは、バスやタクシーの運転手も減ってきていることです。岩槻から蓮田まで走っていたバスの路線が、もうじきなくなってしまう、そういった状況もあります。その状況の中で、どのようにして公共交通を維持するかは、最大のテーマの1つだと思っています。取り組んでいるところです。まだまだ実証実験の段階ですが、しっかり移動ができるようにしたいと思っています。

将来の私たちの夢は、それこそサブスクで、例えば高齢者の人は少し安い値段で、公共バスや電車、電動アシスト付き自転車などの移動手段を、1か月間安い金額で乗り放題という環境ができればと思っています。若い世代はもう少し高くなるかもしれませんが、そういった形で移動ができるようになれば、自動車を持っていなくても移動ができます。それから、歩くことも非常に健康にも環境にもよいことですので、歩くことでポイントがつくことにより、それがインセンティブになって継続ができる。このような仕組みができればということをイメージしながら、様々な対策を進めています。

>>発言9

紙をなるべく減らしてデータ化をして、資源を使うことをなるべく減らすような取組をしていますというお話をいただきました。そして、SNSを活用した広報が非常に重要ではないかというお話をいただきました。さいたま市では電気自動車の推進や、美園地区でやっているスマートシティさいたまモデルというような取組を行っています。これは環境大臣やアメリカの環境保護庁の長官が視察に訪れています。さいたま市で行っている仕組みを、マレーシアのクアラルンプールにワンサマジユという地区があるのですが、そこに導入できないかということで、先般私はマレーシアのクアラルンプールへ行って、サポートするための話し合いもしてきました。

さいたま市では非常に先端的な取組もしているのですが、まだまだ一部分であり、

皆さんに理解してもらおうところまでいっていません。いろいろなモデル事業を行いながら、できれば全市的に展開をしたり、日本中、世界中に広げたりする中で、再生可能エネルギーをうまく使ってマネジメントをして、そして皆が環境に優しい生活ができるように、そういった環境になるように引き続き取り組んでいければと思っています。

広報に当たり、私たちはまだ SNS をうまく活用できていません。YouTube でさいたま市チャンネルをつくっています。たくさん動画は流れていますが、皆さんにとって注目を集める内容がまだまだ乏しいのではないかと思います。皆さんからも、よいアイデアがありましたら、またぜひ教えていただきたいなと思います。

>>発言 10

市が進めている方向性としてはよいのではないかという御意見をいただいている中で、木を増やす、守る、それから大切にすることがすごく重要だという御意見をいただきました。私たちも、排出を抑えるだけでは、カーボンゼロシティにすることは難しいと考えています。二酸化炭素を吸収するということも含めてやらないと、ゼロにするのは非常に難しい目標です。その中で、緑を増やすこともしっかりやっていきたいと思っています。

住宅についても御提案をいただきました。100 年単位で使える住宅、こういったこともすごく重要だと私たちも思います。それから空調をあまり使わなくても住める、住宅。これは美園地区で、冬でも 15℃以下には下がらないという高断熱・高断密の家で、その中で空気が循環する家もモデル的に造っています。そうすることによって電気代も少なくて済みます。かつ屋根には太陽光発電設備をつけていて、そこで発電した電気を、一旦そのエリアの電気をそれぞれ配電する所に 1 回集めて融通し合うので、電気代も非常に少なくて済みます。今そこに住んでいる方は、家としては高かったのですが、その電気代などを踏まえると、環境に優しくてよい住まいができています。そのような街をさいたま市全体に広げていくことはとても重要なことだと思います。

単に再エネということだけではなく、それをどう効率的に使うかということも大切です。そのためには、国でも窓ガラスを三重ぐらいにするための補助金が出たり、壁の中を高断密の仕組にする工事に補助金が出たり、という取組をしています。私たちも、高断熱の住まい、住宅が促進されるように努めていかなければならないと思います。

公共交通について御提案もいただきました。公共交通については先ほどお話をしたのですが、健康マイレージについてもポイント化をしようと思っています。今もポイント化はしていますが、1つのアプリで統合して、いわゆる地域通貨、地域ポイントということで、そのポイントを例えば地域の買い物で使えたり、寄付ができたり、公

公共交通で使えたりというような、いろいろな使い方ができるポイントとしてつくって
いこうと、取組を進めていますので、ぜひ御活用いただければありがたいと思いま
す。そして、再エネの普及についてももしっかりやりたいと思います、

●参加者

<発言 11>

たくさんの意見を聞きまして、勉強になりました。私からは、さいたま市は非常に
いろいろな分野での取組は優れていると思うのですが、広報活動が、どこの自治体も
そうだと思うのですが、伝わらないというか伝わりにくいというのが現状だと思いま
す。

提案としては、市民の参加型だとか、体験ができるとかを通じて、市の取組の内容
を理解できる場があるとよいと思います。例えば緑を植えるのであれば、記念樹の
プレゼントをしていること、シェアサイクルをやっていること、災害の関係で言うと
企業への一斉帰宅の抑制を呼びかけていることや防災アプリを作っていることなどが
あると思います。地球温暖化対策の分野ではこの資料に書いてあるだけかもしれま
せんが、実際さいたま市で取り組んでいる内容を一元化して集めると、非常にいろい
ろなことがあると思うのですが、一元化はされていません。

コストの面で PR というのは非常に難しいと思うのですが、行っている取組を集め
たものを区役所や公民館、学校の施設など、まずかかるコストの少ない所から PR を始
めて、コロナも明けてお祭などもありますので、ショッピングモールやお祭の場で、
お知らせするとよいと思います。地球温暖化対策のための取組は、再生可能エネルギ
ーの活用など、家庭にとってもメリットのあるものなので、そういった情報を一元化
して市民の方が参加しやすいようにするのもよいと思います。

あとはなかなか広がっていない施策ですが、ごみの清掃関係の活動で、SNS でピリ
カというものがあります。ごみ拾いの活動を投稿するといろいろな人がそれを見て、
コメントをしたりすることができます。これと同じように、例えば家庭版の SDGs では
ないですが、各家庭で行っている活動を発信できる場を設けて、市民の方が参加、体
験できる、そのようなものが充実すると、取組がより広まっていくのではないかなと
思っています。

<発言 12>

私は観光ガイドボランティアもやっています。先程コミュニティバスの話が出まし
たが、イベントは、土日を含めて2週間ぐらいで行われることが多いので、その間に
コミュニティバスを出してくださいというお願いを再三しています。一度試しに運行
されたことはあるのですが、その後は全くありません。イベントの時はお客様に対し

て、観光ガイドとしても岩槻のよい所を紹介したいと思っていますので、コミュニティバスを運行してほしいと思っています。

それから、これはSDGsに関係していると思うのですが、郷土資料館や遷喬館は、埼玉県内に残る唯一の江戸時代の藩校です。郷土資料館も、岩槻の街を知り、愛着を深めることができる建物であり、この2つは各イベントの協力にもなると思います。古い建物を守っていく、歴史だけではなく、建物を守る努力をしていただかないと、これはなくなってしまいます。こういう所も紹介したいのですが、残念ながら月曜日はこれらの建物は閉館日で、開けてはいただけません。

イベントの時は郷土資料館と遷喬館を開放していただき、お客様に見ていただきたいです。岩槻のよい所を紹介したいのです。だんだん人口も減っていくこともあり得るので、よい所を紹介して、アピールしていかないといけないと思います。観光だけではなくて、住みよい街が私たちの住みよい所です。なかなか難しい問題ですが、よろしく願いいたします。

<発言 13>

さいたま市の取組について、電気自動車や太陽光発電設備を拝見してやっとわかったのですが、暮らしていても、市の取組についてよくわかっていないなと思っています。もう少し全体的に発信してもよいのではないかなと思います。暮らしていても、取組についてまったく感じないなと思っています。取組に関する発信と、電気自動車にすることによって発生するメリットなどを具体的に発信しないと多分誰も取り組まないと思います。人間はメリットを重視すると思うので、メリットがあることを発信していかないと、やらないと思うのです。広報の仕方を工夫して進めていかないといけないと思います。また補助金とかも多分出せると思うので、それについても周知した方がよいと思います。

カーボンニュートラルという言葉が出たと思うのですが、興味のない人からすると言葉の意味がわからないと思うので、もう少し柔らかい言葉でわかりやすく伝えることが大事だと思いました。

◆市長

>>発言 11

さいたま市もいろいろな取組を行っているが、広報がまだ伝わらない、伝わりにくい状況があるのではないかというお話をいただきました。その対策として、もっと市民参加型、また体験ができるような取組を充実させたらよいのではないかという御提案をいただきました。さいたま市がやっているいろいろな取組についても御紹介いただき、ありがとうございました。

おっしゃる通り、広報することがすごく私たちも重要だと思っています。市報やホームページでの広報、記者会見も私自身は2週間に1回やっています。それから、毎日のように記者発表をしているのですが、なかなかそれだけでは伝わらないこともあり、もっと工夫の余地があると思っています。SNSも、YouTubeやFacebook、X（旧Twitter）、インスタをやっているのですが、なかなか効果が出ないことが大きな課題だと思っています。皆さんに関心を持っていただけるような、体験型というのはいすごくよいアイデアだと思います。そういった方法も含めて広報活動をもっと充実していきたいと思っています。

最近はいいたま市のLINEのメニュー画面をリニューアルして、LINEを登録して関心のある分野を選択していただくと、その登録内容に合った情報を配信するというやり方を始めました。市が配信している情報はたくさんあるので、関心のない情報も多くなってしまい、そうすると関心のあるはずの内容を見落としてしまうこともあると思います。私たちとしては必要な人に必要な情報を提供するために、LINEの分野別配信を始めました。ぜひ使っていただいて改善した方がよい点があれば、また御意見いただければありがたいなと思います。

防災のアプリも充実をさせています。マイタイムラインをつくったり、今いる場所からいちばん近い避難場所にはどういうルートを使っていけばよいかということもわかるようになっていきますので、ぜひ活用いただければと思います。

それから、家庭版SDGsのアプリのようなのも面白いのではないかという御提案をいただきました。皆さん一人ひとりの取組がどう見える化をされて、社会に役立っているのか。プラスになっているのか、メリットがあるのかということがきちんと伝わっていくことが重要だと思います。いろいろな工夫をして見える化をする、理解してもらうことを、様々な取組とあわせてやらなければいけないなと思います。またいろいろな機会や場面を使ってやりたいと思います。

>> 発言 12

観光ボランティアガイド、ボランティアもやってくださっているということで本当にありがとうございます。お話の中に郷土資料館と遷喬館の施設のお話も出ました。

本当に岩槻にはいろいろな資源があって、市民の皆さんにより知っていただくことで、地域への愛着も湧くし、また古いものを尊重する気持ちも出てくるのだろうと思います。そういう意味では、そういったことについてももしっかりやりたいと思いますし、今イベントの時、私たちもできるだけ月曜日に大きなイベントがある時には開くようにしているのですが、全てのイベントの日には対応できていないかもしれません。5月1日をさいたま市民の日にして、この時は月曜日に休館の所も基本的には全部開けて、見ていただくことができるようにしています。その日は基本的には無料で見られます。岩槻を含めてさいたま市内にはいろいろな公共施設がありますので、5

月1日はさいたま市民の日で市立学校はお休みになっていますので、ぜひそういった機会なども活用して見ていただければありがたいです。イベントの時にできるだけ開館することについては、再度検討したいと思います。

それから、たくさん地域の魅力を知っていただくことで、人口減に歯止めがかかってくるのではないかというお話もいただきました。さいたま市は先程全国でも人口増加数トップクラスだというお話をしました。しかし、2030年には人口減少が始まるという推計が出ています。日本全体は人口減少が始まっています。高齢化も進んでいます。そして少子化についてはものすごい勢いで進んでいます。

コロナによって毎年100万人ぐらい、この少ないと言われている中でも100万人ぐらい子どもが生まれていましたが、今は80万人を切ってしまいました。人口が減ることは、なかなか皆さん現実として感じられないかもしれませんが、経済が小さくなってしまいうことです。いろいろな所でいろいろなマイナスが出てきます。それから福祉の制度など、担わなければいけない負担が増えてくる、こういった時代になってまいりますので、高齢化への対応、少子化への対応、それから人口減少もできるだけ先送りしてなるべく減らないようにしていくことが、非常に重要だと思っています。その中で岩槻も含めていろいろな街のよい所をお知らせする、知っていただく機会が必要だということについては、私たちもそのように思います。そういう機会を増やしていきたいと思います。岩槻の場合、区長をはじめ区役所職員たちが工夫して岩槻の街歩きなど、さいたま市の他の区からも今岩槻に来てもらうような取組も、大変熱心に実施しています。そういったのもまた更に増やしていければよいなと思います。

>> 発言 13

いろいろな取組をやっているのは今回わかったが、なかなか生活をしていて実感が得られていないというお話がありました。まだモデル的にやっていることも多いので、これをどう全市的に広げられるかということもすごく大きなテーマだと思います。一部の地域だけでそれができて、他の地域ではできないという、当然今お話のあったように、メリットとしては感じられないと思いますので、できればさいたま市内全てで、取組を実感していただけるように、更に拡充していきたいと思います。

それから、電気自動車等を使った場合のメリット、脱炭素も含めたメリットをもう少しわかりやすくPRして欲しいというお話がありました。メリットについてもできるだけわかりやすく、やりたいと思わせるようなPRを工夫していかなければいけないと改めて感じました。

今日は、皆さんが自分事化をしていただいて、いろいろ御意見を頂戴したこと、大変貴重な意見だったと思います。ありがとうございます。私たちも皆さんの意見を持

ち帰り、踏まえながら、先程地球温暖化対策の防止の計画を改定する作業をしていますので、反映していきたいと思います。この地球温暖化の対策については、私たちはもちろんですが、若い皆さんにとっては、本当に皆さん自身の大きな問題になると思います。しっかり歯止めをかけていかなければ、皆さんが大人になって社会の中心になって、大変苦勞することにもつながってくると思います。ぜひ皆さん、一緒に頑張っていきましょう。よろしくお願いいたします。

今日は1時間半という時間でありましたが、皆さんから大変素晴らしい意見がたくさんできたことを心から感謝を申し上げたいと思います。またこれからもこういったタウンミーティングや皆さんからいろいろな御意見を頂戴できる機会をたくさん増やしていきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

■補足説明

「学校の中で環境について学ぶ機会をもっと充実させる」について

本市では、市民の皆さんが開催する集会や会合、学校の授業などに、市の職員が出向いて市の施策や制度、事業等について分かりやすく説明する「出前講座」を実施しています。この出前講座の中には、地球温暖化対策に関するものも含まれており、学校にもっと活用いただけるよう、周知等を図ってまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「もっと家庭にチラシを配るといったアピールが必要」について

今後、市の取組を市民の方々に見える化するとともに、家庭でできる温暖化対策の取組を周知できるよう、様々な媒体を活用し、積極的な広報周知活動を進めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「捨てられないチラシの工夫」について

チラシ等を作成する際には、人の目を引くようなデザインを意識するなど、より効果的な周知・啓発を実施できるよう、努めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「太陽光発電設備やエネファームの設置、蓄電池の設置の補助金」について

太陽光発電設備への補助金につきましては、今後の需要や他自治体の事例等を参考に見直しを検討してまいります。また、できるだけ多くの方々に再生可能エネルギーを活用していただけるよう、補助金や民間事業者等の仕組みについて、周知を図ってまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「海外の市の対策も参考に」について

本市では令和4年11月に、3日間の日程で、さいたまサステナブル都市サミット～EKIZUNA グローバルサミット～を開催しました。海外9ヵ国15都市に参加いただき、「持続可能な都市の実現に向けて、今、わたしたちがすべきこと」をテーマに、それぞれが抱える課題や取組について意見交換を行いました。また、モビリティやエネルギー、スマートシティなどをテーマにディスカッションを行い、先進事例を共有したところです。海外の政策は法律や地域特性が異なる部分もありますが、参考になる取組も多くあることから、引き続き国際会議等の場を活用し、意見交換や情報共有をしながら本市の施策に活かしていければと考えています。

令和4年度から、環境省の「脱炭素社会実現のための都市間連携事業」を活用して、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）、東京都と共に、マレーシア国クアラルンプール市におけるゼロカーボンシティに向けた制度構築に協力しています。

(都市戦略本部 未来都市推進部、環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「空調をあまり使わなくても住める住宅」について

現在、本市では、太陽光発電による電力創出・省エネルギー設備の導入・外皮の高断熱利用などにより、生活で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが上回る住宅であるZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）への補助を実施しております。補助金につきましては、今後の需要や他自治体の事例等を参考に見直しを検討してまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「さいたま市健康マイレージ」

令和5年12月にさいたま市健康マイレージのリニューアルを行いました。それに伴い、市長定例記者会見での情報提供、市報さいたま12月号の特集ページなどといった広報を行いました。今後もSNSやオンライン広告等を活用し、広報活動に努めてまいります。また、地域通貨との連携については、今後連携方法や時期を含め、検討を重ねてまいります。

(保健衛生局 保健部 保健衛生総務課)

「再生可能エネルギーの普及」について

脱炭素社会の実現に向けては、太陽光発電を始めとする再生可能エネルギーを最大限導入していくことが必要不可欠であると考えておりますので、今後も本市で活用していけそうな発電設備を検討していくとともに、市民等に対し、積極的に周知を図ってまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「市の取組の広報」について

今後、市の取組を市民の方々に見える化するとともに、より効果的に市の取組をPRできるよう、イベントへの参加やSNS等など、様々な媒体を活用し、積極的な広報周知活動を進めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「イベント時のコミュニティバスの運行」について

土・日及び祝日に開催される市民を対象とするイベントや会議等に、コミュニティバスを活用することができます。各イベント等の主催者に対しコミュニティバスの活用をご案内しておりますが、より積極的に活用を呼び掛けてまいります。

(都市局 都市計画部 交通政策課)

「もう少し柔らかい言葉でわかりやすく伝える」について

今後、周知啓発等を実施する際には、専門用語やカタカナ語など意味の伝わりにくい言葉について、わかりやすい言葉に置き換えるほか、注釈を加えるなど、わかりやすく説明できるよう努めてまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)